

塩川正十郎氏死去

93歳

元財務相、「塩爺」の愛称



元自民党衆院議員で、財

務相などを務めた塩川正十郎(しおかわ・まさじゅうろう)氏が19日、肺炎のため、大阪市内の病院で死去した。93歳だった。告別式は24日正午、大阪府吹田市桃山台5の3の10公益社千里会館。喪主は長男、耕士(こうし)氏。

旧大阪4区で初当選。当選11回。鈴木内閣の運輸相、中曾根内閣の文相、宇野内閣の官房長官などを歴任した。森派(現・細田派)に所属し、同派出身の小泉純一郎氏が2001年4月に首相に就くと、財務相に起用され、小泉首相の相談役としての役割も果たした。在任中は飄々とした国会答弁ぶりが若い世代からも注目され、「塩爺」の愛称で親しまれた。

政界引退後は東洋大学総長や関西棋院理事長などに就任。「薬師寺21世紀まほろば塾」(現・薬師寺まほろば塾)の推進の会長も務めた。政界の「意見番」としてテレビ出演する機会も多かった。

△評伝4面、関連記事30面▽

「癒やし系大臣」愛され

塩川正十郎さん 小泉改革支える

評伝

「塩爺」の愛称で親しまれた塩川正十郎氏が死去した。

「小泉改革を推進する中、79歳で安定感のある塩川さんが財務相を務められたことで、内閣が落ち着いた雰囲気になった」

2001年4月発足の第1次小泉内閣で、官房長官を務めた福田康夫元首相は19日、同じ閣内にいた塩川氏をこうしのんだ。



名譽閣僚の宇野内閣で、首相官邸で、塩川正十郎官房長官（当時）（1989年撮影）

大阪府布施市（現在の東大阪市の一部）の助役から衆院議員に転じた塩川氏は、地方自治や税制問題に精通し、永田町で頭角を現した。1990年の党税制調査会長時代には地価税を導入した。

若い頃は、すぐカツとなる性格から「瞬間湯沸かし器」の異名を取ったが、がんを患ったり、落選したりして丸くなった。

01年に財務相に就くと、「もつ、よろしいやろ」「えらいこっちゃ」といった関西弁の醸し出す柔和な記者会見などが、テレビのワイドショーなどで取りあげられ、「癒やし系大臣」などと呼ばれた。

塩川氏をよく知る建築家の安藤忠雄氏は19日、「自由と正義感あふれる人。大阪人らしいユーモアもあった」と語った。派閥は、森元首相や安倍

首相と同じ清和政策研究会（現・細田派）に属し、かつては安倍派「四天王」の一人として名をほせたことも。91年に安倍晋太郎氏が死去した際には、三塚博氏の対抗馬として名前が挙がったが、「裏方」に徹することを決め、事実上、三塚氏に後継会長を譲った。その後派内の「潤滑油」の役割を果たし、派閥抗争を封じた。これが森、小泉、安倍、福田の4氏を首相に担ぐ派の黄金時代の下地になったとも言われる。

小泉首相が掲げた構造改革路線の良き理解者として支えたが、体調が悪化し、

03年秋に政界を引退。09年に自民党が野党に転落した後も、派閥事務所に姿を見せて後輩に助言するなど同派の議員を大事にした。人を育てることに尽力し、争いを丸く収めて収れんさせる。自民党が長期政権を築くのになくてはならない人だった。（谷川広二郎、本文記事1面）

安倍首相は19日、塩川氏の死去について、首相公邸で記者団に「あれほど財政の重要性を分かりやすく話した財務相はいなかった。心から冥福をお祈りしたい」と語った。

関西弁、飄々とした人柄

塩川さん死去 関空建設に剛腕

19日に93歳で亡くなった元財務相の塩川正十郎さんは、関西の発展のために辣腕を振るう政界の大物でありながら、柔らかな関西弁と飾らない、飄々とした人柄が、多くの人を魅了した。〈本文記事1面〉

自らを「平々凡々たる政治家」と評した塩川さんが、剛腕ぶりには誰もが一目置いた。1980年、運輸相として初入閣した際の就任記者会見では、停滞していた関西空港の建設計画に触れ、「建設にメドをつけたい」と省内に根回しなく発言。その後、調査費計上などを取り付けて計画を

推し進め、東京一極集中への対抗心をにじませた。

元大阪府知事の中川和雄さん(88)は開港前の副知事時代、塩川さんに「ボヤボヤしてると(他の空港に)路線を取られる。はよ工事

にかかれ」とゲキを飛ばされたといひ、「大阪のことで様々な相談にのってもらった」と懐かしんだ。

小泉内閣の財務相当時には「忘れてしまいました」などと、とぼけた国会答弁



経済財政諮問会議に臨む塩川さん(手前)。財務相として小泉首相を支えた(首相官邸で、2002年7月)

◆話題になった塩川さんの言葉

「もうよろしいやろ」

2001年4月、財務相就任会見で質疑を関西弁で締めくくる

「忘れてしまいました」

2001年5月、国会で官房長官時代の官房機密費の使途を追及されて

「(癒やし系などの)意識も、イメージもない。ただ、ちょっと塩辛いところがあるから、ぴったりとひっつけたと思う」

2001年5月、国会で「塩爺」人気を問われて

「母屋(一般会計)ではおかゆを食べて節約しておるのに、離れ座敷(特別会計)で子供がすき焼き食っておる」

2003年2月、国会で特別会計の無駄遣いを指摘

「いつまでも老骨を下げて、迷惑をかけるわけにはいかない。(引退後の)ロスタイムを大事に使いたい」

2003年9月、派閥の会合で引退表明

で野党の追及をかわし、「塩爺」と広く親しまれた。「あの答弁が批判されなかったのは偉ぶらず、憎めない人柄だったから」。こう指摘するのは塩川さんが信徒総代を務めた奈良・薬師寺の山田法胤管主(74)だ。

除夜の鐘突きには毎年、寺に駆けつけ、「今年もみんなで頑張っていきまひよか」とあいさつするのが恒例。政界引退の翌年の2004年、日本人の美しい心を取り戻そうと始まった「薬師寺21世紀まほろば塾」(現・薬師寺まほろば塾)では10年間、塾を応援する「推進の会」会長を務めた。今年5月の役員会でも元氣

な姿を見せていたといひ、山田管主は「ざっくばらんやけど義理堅く真面目。あの関西弁を聞けないかと思うと寂しい」と悼んだ。

04年には、東洋大総長と関西棋院(大阪市)の理事長にも就任。関西棋院常務理事の藤原克也さん(45)によると、塩川さんは「囲碁は家族の絆を強める」との信念を持ち、企業を回っては「よろしゅう頼むわ」と頭を下げ、大会創設などに尽力した。藤原さんは、「感謝の言葉しか思い当たらない」と惜しんだ。

政界引退後は大阪府東大阪市の自宅で長男夫婦と暮らしていたが、1週間ほど前から体調を崩して入院していた。19日、自宅で遺体と対面した元秘書の宗清皇一衆院議員(45)は、「穏やかな表情で、今にも起きるさきそうでした」と話した。